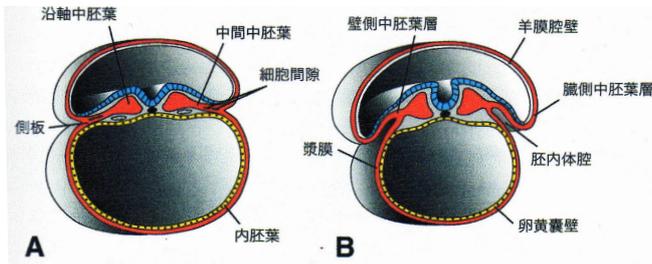
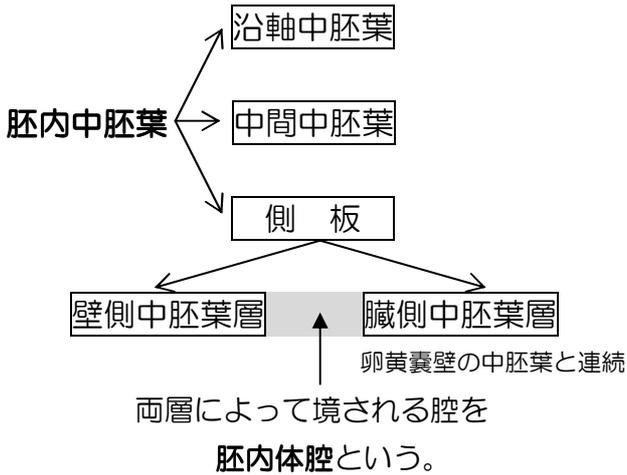
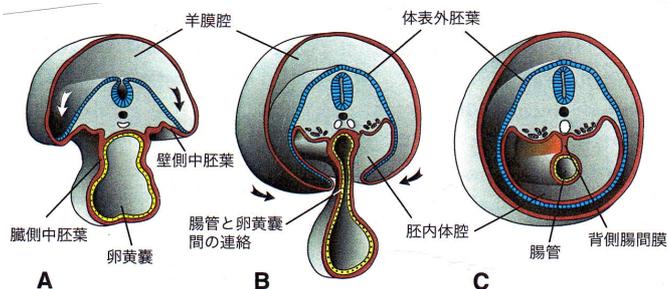


【今回の話】
 1. 胚内体腔
 2. 漿膜
 3. 横隔膜と胸腔

1. 胚内体腔 intraembryonic cavity
 ☆胚内体腔形成の流れ



※頭尾方向や側方への胚子の折り畳みによって胚内体腔は胚外体腔との連絡を失う。



2. 漿膜 serous membrane

壁側中胚葉層→壁側板 parietal layer
 臓側中胚葉層→臓側板 visceral layer } 漿膜

壁側板は腹膜腔、胸腔腔、心膜腔外壁の内面を覆う。
 臓側板は腹部内臓、肺、心臓を覆う。

※腸間膜 mesentery

腹膜の二重層からなる中胚葉の带状構造物
 血管、神経、リンパ管が器官に至る経路となる。

背側腸間膜 dorsal mesentery

前腸尾方部~後腸の中胚葉が肥厚して形成
 壁側板と臓側板をつなぎ、腸管を腹膜腔に
 吊り下げる

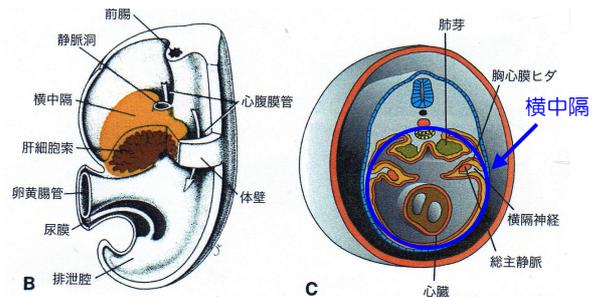
・腹側腸間膜 ventral mesentery

前腸尾方部~十二指腸のみ (×中腸・後腸)
 横中隔の中胚葉が薄くなって形成

3. 横隔膜と胸腔

・横中隔 septum transversum

原始胸心膜腔と卵黄囊柄 (卵黄腸管) との間の
 空間にある中胚葉組織の分厚い板
 分離された胸腔と腹腔は心腹膜管でのみ連絡する。



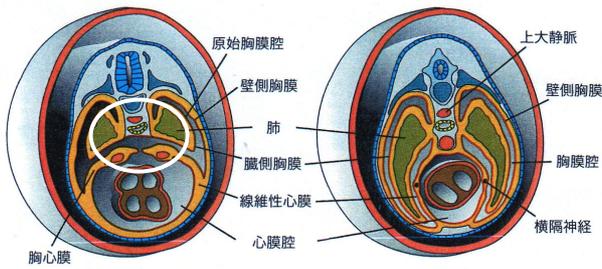
・肺芽の成長

心腹膜管を尾側に向かって膨張しながら成長
 →肺は心腹膜管に収まりきらず、胸心膜ヒダを
 形成してその側方面で拡張する。

肺の拡張に伴って、体壁の中胚葉は終局的胸郭壁と
 胸心膜に分けられる。

胸心膜は総主静脈および横隔神経を含み、やがて
 総主静脈が正中線に向かって移動するのに伴って
 胸心膜が引き伸ばされる

- 最終的には胸心膜ヒダどうしの間、さらにヒダと肺根との間でそれぞれ癒合が起こり、胸腔は心膜腔と両側の胸膜腔に分割される。



◆横膈膜 diaphragm の形成

胸腹膜ヒダの形成



胸腹膜ヒダの伸長

(外背側→内腹側)

↓ ← **横中隔**・**食道間膜**と癒合

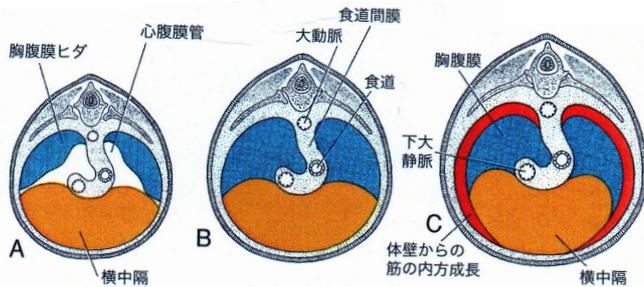
心腹膜管 (胸腹膜管) を閉鎖

(**胸腹膜**の形成)

↓ ← 胸膜腔の拡張

体壁から内方へ成長した

筋要素が加わる



横中隔 (腱中心を形成)

胸腹膜

食道間膜 (**脚 crura**)

体壁由来の筋要素

横膈膜

※横中隔は心臓の発達に伴って次第に頸部から下方に移動し、胸部下部に達する。

• 横膈膜の神経支配

横膈神経 phrenic nerve

C3~5、運動・知覚を支配

横膈膜辺縁部の知覚線維は下位の肋間神経である**胸神経**に由来する。

